

この社会を変える

田原中学校 3年 藤沢ユリ

最近よく「イクメン」という言葉を耳にします。「イクメン」とは、子育てする男性という意味で、十年ほど前に政府が少子化打開の政策として打ち出したイクメンプロジェクトから一気に広がったと言われていています。女性が中心で家事や育児をしてきたこれまでの社会で、率先して育児を行う男性が増えてきたことは喜ばしいことです。でも、「イクメン」という言葉は、いまだに育児の主体が女性であるという証拠でもあります。なぜなら、男性が積極的に育児に参加することが当たり前の社会では、「イクメン」という言葉は生まれません。

男女共同参画という言葉が新聞やテレビで報道され、学校の授業の中にも登場するようになりました。私は、男女共同参画とは、男女がお互いを尊重し合い、あらゆるところで性別に関係なく、もてる力を発揮できることだと考えています。だから、「イクメン」という言葉を使わなければならないこの社会は、男女共同参画が実現されていないと思っています。

では、男女共同参画が実現されていないこの社会を変えるためには、どうすれば良いのでしょうか。その問題を解く一つのかぎが、「イクメン」の中に隠されていると私は思っています。当然のことながら、子供を産むのは女性です。お腹を痛め、命がけで出産を終えた女性は、交通事故で大けがをした後のようなものだと言われていています。そんなボロボロの体で、休む間もなく育児を行う女性は少なくありません。出産や育児の最初において、男性のできることはあまりありません。でも、女性のそばに寄り添い、女性に声をかけ、話し相手になるだけでも女性の負担は減ります。大切なのは、女性の大変さを少しでも分かろうと男性が努力できるかどうかです。「イクメン」とは子育てする男性のことだと最初に言いましたが、インターネットなどで調べてみると、「積極的に子育てを楽しみ、自らも成長する男性」を指すとも書いてありました。つまり、「イクメン」が増えるということは、育児を通して女性の大変さを理解し、何とかしなければと考える男性が増えるということです。このことから、私は「イクメン」の延長線上に男女共同参画の実現があると考えようになりました。

NHK 教育テレビに、「おかあさんといっしょ」という長寿番組があります。歌や体操、人形劇など、楽しいことが盛りだくさんなので、子供たちに人気があり、私もよく見ていました。でも、最近になって、同じNHKの衛星放送で「おとうさんといっしょ」という番組があることを見つけました。その番組を見つけたとき、「イクメン」は確実に増えているんだなと感じました。このように社会はますます変わります。良い方向に変わっていきよう、私も手伝いたいと思います。